

プレゼン最前線2020年6月号

2020年6月15日

高野 文夫
NPO 日本プレゼンテーション協会理事長

これからは、ほとんどの会議やセミナー がZoomなどのテレワークに置き換わる

新型コロナウイルス感染対策で「テレワーク」が急に身近になりました。その中でも特に頻繁に行われるようになったのが「オンライン会議」だろう。

導入当初は、実際に集まらなくてもお互いの顔を見ながら話ができるだけで、便利さが感じられました。

しかし、オンライン会議やセミナーを始めて、一か月、二か月・・・と経ってきたらオンライン独自の良さをさらに活かす会議やセミナーにしてゆきたいという欲が出てきました。

そのためにまずできることは何だろうか？それには、きちっとしたルールを決めることです。ZoomやGoogle Meetといったツールを使った「オンライン会議」では、表情や雰囲気を読み取りにくい。

また、微妙にタイムラグがあるので、間合いがとれず、同時に話し出してしまふこともあります。さらに、カメラの位置によって、視線の向く方向がわかりにくい。

自宅で接続している場合、部屋の中のように見えてしまったり、家族の声や姿が入ってしまったりすることも起こる。これらの点をカバーするために、次のようなルールを決めておくことが大切です。

- できるだけイヤホンマイクを使用する
または、発言している人以外は、マイクをミュートにする。
- 相手に伝わりやすいリアクションをとる
何か尋ねられたら、うなずくだけではなく、しっかり返事をする、ジェスチャーで示すなど。

とくに、会議の長時間化の原因が職場トップや上司などの場合は、注意するのが難しい。

プレゼン最前線2020年6月号

オンライン会議導入という機会をとらえて、発言の仕方にもルールを導入し、テーマとの関連がはっきりしない長い弁舌をふるうといった、会議を長引かせてしまう発言方法についてもなくしておきたいものです。

具体的には、「PREP 法」で発言する、というのがおすすめです。

PREP 法とは、下記の4段階で論を展開する方法です。

P=Point（結論）
R=Reason（理由）
E=Example（事例、具体例）
P=Point（結論を繰り返す）

これを意識することで、内容が伝わりやすく、簡潔になるという効果があります。

この続きは 2020 年 7 月15 日号になります。